

水曜通信 8

東北学院宗教センター編

2021年
5月

LIFE

LIGHT

LOVE



「受洗」

(マルコによる福音書 1:9-11)
田中 忠雄作 1987年

「イエス、洗礼を受ける」の場面。
両手を組み、ヨルダン川で洗礼を受ける
イエス。そのイエスの頭に手を置いて
て洗礼を施しているのは 洗礼者ヨハネ。

第2回

泉キャンパス礼拝堂
ステンドグラス紹介

「持続する内的な力」

第二次世界大戦中、34歳という若さで死去した哲学者
シモーヌ・ヴェユ (1909-1943) の『重力と恩寵』に
は、「我々人間は、肉体のエネルギーを外部から食物で
摂取しているにも拘らず、しかし精神的なエネルギーが
外部から来ていることには気付かない。精神的なエネ
ルギーは自分の内部にあると錯覚している」とある。つ
まり私たちが力強く活動するために必要な内的な力
は自分で獲得したものではなく、外から到来するとい
うわけである。インスピレーション(ひらめき、靈感)と
いう言葉もあるように、外から内へ下る霊的な働き
である。ユダヤ教徒のヴェユは、キリスト教徒にな
ろうとしたとも言われる。いずれにせよ、神から賜
う霊的な力を強く感じていた。新約聖書のヨハネ
による福音書で主イエスが、「わたしが与える水は
その人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわ
き出る」(4:14)と言われたが、それは持続する
内的エネルギーでもある。今まさにこの力が必要
である。



東北学院宗教センター主任(宗教部長) 野村 信

次回：第42回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)
5月26日配信予定

学校法人東北学院ホームページをご覧ください。

【第1部 礼拝】

説教：鐸木 道剛(理事長特別補佐(宗教センター担当))

奏楽：大泉 真理(本学礼拝オルガニスト)

【第2部 音楽による賛美】

演奏：大泉 真理



第41回 水曜公開礼拝報告（説教：野村 信、奏楽：今井 奈緒子）

2021年4月21日（水） 公開オンライン礼拝

讃美歌：312番「いつくしみ深き」
聖書：マタイによる福音書 13章31～32節
讃美歌：301番「山べに向かいて」
説教：「心は天へ、足は地に」
頌栄：542番「よをこぞりて」



【説教要旨】

主イエスは「からし種のたとえ」を語られました。小さな種が、大地にまかれ水を吸収すると、芽を出し、幹を伸ばし、木は天に向かってまっすぐに伸びていきます。私たちは、木よりもはるかに賢いのに、まっすぐに生きるということに関しては苦手です。さらに、大きく成長するためには、外には見えないけれど、しっかりと大地に根を張る取り組みが必要です。それは、眼には見えない神を、心で信じ、その教えに耳を傾け、祈り、人々に仕えるという、地味な働きを続けることが必要です。これが、いずれ良い実を結ぶのです。「心は天へ、足は地に」着けて進んでいく歩みを新年度も続けましょう。

（宗教部長・宗教センター主任 野村 信）

前奏：J.S.バッハ コラール編曲「キリストは甦りたまえり」BWV627

後奏：J.S.バッハ コラール編曲「キリストは死の縄目に繋がれしが、甦りて」BWV625

今年は4月4日（日）がイエス・キリストの復活を祝うイースターでした。この復活節にちなみ、バッハのオルガン小曲集より2つのコラール編曲を選んでいきます。前奏の「主は甦りたまえり」は3節からなる歌詞に沿った変奏で、終曲ではペダル音型に「ハレルヤ！」が聞かれます。後奏はよく知られた力強い編曲です。原曲コラールの歌詞がやはり「ハレルヤ！」と結ばれています。

（本学教養学部教授・大学オルガニスト 今井 奈緒子）



礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：今井 奈緒子）

1. H. シャイデマン (ca.1596-1663) コラール編曲「キリストは死の縄目に繋がれしが、甦りて」全3節
2. F. メンデルスゾーン B. (1809-47) コラールと変奏「われ心より慕いまつる」
3. F. メンデルスゾーン B. (1809-47) テーマと変奏 二長調

17世紀ドイツの作曲家ハインリヒ・シャイデマンは、ハンブルクの聖カタリナ教会オルガニストを務めました。この教会のニーホフ建造による4段手鍵盤とペダルを擁する大オルガンは、第二次大戦で爆撃を受け破壊されましたが、近年歴史的修復を経てその壮麗な姿と響きを取り戻しています。礼拝の後奏と同じコラールを題材に、バッハの約100年前に編曲された全3節をお聴きください。

メンデルスゾーンは10代の始めからオルガンを弾きその名手となりました。バッハの作品を弾ける技術を持つ人の少なかった当時、各地でその優れた演奏を披露し、得意とした即興に着想を得て作曲しました。60曲を超えるオルガン作品が存在しています。コラールと変奏は、受難の歌詞でも知られる「心よりわれ…」の四声体コラールに、バロック様式の変奏が続きます。「主題と変奏」は一転して復活節の春を思わせ、敬虔さと静観を湛えた作品です。

（本学教養学部教授・大学オルガニスト 今井 奈緒子）



東北学院の草創期 (7) 「なぜ？」

東北学院は、なぜ？伝道者を養成する神学校として始められたのか。これには、学校設立をめぐって同志社の新島襄と競合したことが関係しています。

新島は、北日本における伝道の拠点として仙台に教育機関を設置する夢を抱き、旧仙台藩士で当時日本銀行副総裁の地位にあった富田鉄之助の助言を得ながら、仙台市長や宮城県知事にも強く働きかけていました。他方、押川もすでに仙台を中心に東北・北海道にまで強力な伝道を展開し、男子校設立の願いを持って準備を進めていました。

1886(明治19)年に入ると、新島はデフォレスト、押川はホーイの各宣教師と共に、東京と仙台で精力的な四者会談を重ねますが、県や市の支援を得ている新島が圧倒し、同年秋に新島を校長とする「宮城英学校」（翌年「東華学校」と改称）が創立されました。しかし、当時吹き荒れたナショナリズムの影響を受けてキリスト教色を一掃したことから、宣教師等の総辞職を招き、開校からわずか5年半の明治25年3月で廃校となります。

こうした中、押川とホーイは明治24年には仙台神学校校舎を完成させ、校名を「東北学院」と改称して、一般教育機関を設立します。土樋キャンパスに保存されているデフォレスト館は、このような事情を物語る重要な建物です。



仙台神学校校舎(1891年)



デフォレスト館(1887年)

(東北学院史資料センター 日野 哲)

— 建築が語る東北学院の歴史 (2) —

不明な点が多かった土樋キャンパス「正門」の来歴が、かなり詳細に分かりました。

もともと正門は、本館と同じ大正15年に建設されました。戦中の「金属供出」では当初のTG章（ブロンズ製の“T”“G”）を失いましたが、戦後に修復されました。門扉は現在4代目で、学院の歴史とともに移り変わってきたものであることが確認されました。

門柱は、昭和60年頃に修復されたものであることが分かりました。当初は無かった校名標が綺麗に埋め込まれているのはそれ故ですし、目を凝らして2枚の写真を見比べると、脇門上部に施された歯形の装飾（デンティルと呼びます）の歯数が違うことも分かります。基礎の高さが違うのは、舗装の整備により、建設時よりも現在の地面が僅かに高いからです。

しかし重要なのは、昭和60年の整備工事が、オリジナルにかなり忠実に、丁寧に行われたことが分かった点です。これにより、現在の門は、建築家Jay H.モーガンの当初のデザインをよく残していることが証明されました。正門の歴史的価値が確認された瞬間でした。

(工学部 崎山 俊雄)



大正15年10月18日に撮影された正門の写真
(史資料センター蔵)



2017年8月3日に撮影された正門の写真
(崎山撮影)

祈りのポーズ



ロシア・イコン
『パナギアの聖母子』12世紀
トレチャコフ美術館

前号からオランス（あるいはオランテ）という言葉が出てきていますが、「祈る」の意味のラテン語の動詞「オーラ（ora）」の現在分詞男性形です。両手を広げて神さまに向かい合う姿勢で、旧約的な圧倒的な神さまに出会う時の祈りの形です。

それに対して合掌はデューラーの美しいペン画が有名です。合掌は、姿勢が前屈みになることから分かるように祈りの内面化で、近代的なキリスト教の祈りのポーズです。

中世での外部の圧倒的な神さまとの出会いから、近代では内面を通じて神さまに至るのです。一方、仏教では昔から合掌です。（理事長特別補佐〈宗教センター担当〉鐸木 道剛）



伝月光像 8世紀
東大寺二月堂



デューラー(1471-1528)
【〈ハラー祭壇画〉のための下絵】
1508年頃 アルベルティナー美術館

美術による賛美 (5)



渡辺総一『ノアの箱舟』ミクストメディア
26.8x20.9mm, 2016年制作

前回に引き続き渡辺総一さん（1972年経済学部卒）の絵です。

創世記7章に記されたノアの箱舟を描いています。箱舟は三階建てで、主に上段には鳥類、中段には家畜、下段にはキリンや象などサイズの大きな動物がいます。蛇も真ん中にいます。ノアは上段の中央で、両手を広げてオランス（お祈り）のポーズです。左には後に平和を伝える鳩がいます。背景は雲と雨空と海です。不透明水彩絵具とパステルを主に使って雲も雨も海も背景も線の重なりで描かれて、触覚的で陶器のような表面仕上げになっています（写真右：細部）。日常生活の中的美が豊かな日本人の工芸的美意識を思わせます。この絵はNewborn Babies Bibleという子供聖書のために描かれた21枚の中の1枚です。（鐸木 道剛）



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第8号

2021年5月7日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村信

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp